

第3学年 中学校社会科（公民的分野）学習指導案

- 1 単元名 第4章 私たちの暮らしと経済
 第4節 財政と国民の福祉 「社会保障の仕組み」

- 2 単元について
 3 単元の目標
 4 単元の評価規準
 5 単元の指導と評価の計画
- } (省略)

6 本時の学習指導（本時3/4）

(1) 目標

- ・我が国の社会保障制度の仕組みについて理解する。 【知識及び技能】
- ・社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましを理解したうえでこれからの社会保障制度について、持続可能な観点から考察し、表現する。 【思考力、判断力、表現力等】

<ヤングケアラーの扱いについて>

本単元では、社会保障制度のあらましを理解することをねらいとしている。日本の社会保障制度の4つの柱「公的扶助」「社会保険」「社会福祉」「公衆衛生」について学習するなかで、この制度が生涯にわたり私たちの生活を支える役割を果たしていることを理解させたい。その中でヤングケアラーについて取り上げる。ヤングケアラーを支える仕組みが現在の社会保障制度の枠組みにないため、自治体独自に施策を行い支援を始めたところである。生徒にとって身近なところにあるヤングケアラーの問題を知り実際の具体的な支援に役立てたい。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点（・） 評価規準（◇） <評価の観点>（評価方法）
導入 7分	1 前時の学習活動との関連を理解する。 2 本時の課題を確認する。	・財政の役割で学習した国の行う公共サービスの代表である社会保障について学ぶことを確認させる。
	課題 わが国の社会保障制度はどのような仕組みになっているのか。	

<p>展開 33分</p>	<p>3 社会保障の考え方が生まれた歴史的背景を知り現代との違いを考える。</p> <p>4 自助・共助・公助の考え方を知り、社会保障制度の4つの柱とのかかわりを考える。</p> <p>5 ヤングケアラーの事例をもとに社会福祉の実際を知り、これからの社会保障制度について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀の産業革命後、ロンドンの劣悪な環境を正し労働者の生活を保障する制度として社会保障制度が誕生したことを理解させる。 ・現代では安定した生活を送るために自助だけでは限界があることに気づかせる。 ・生活上のリスクに対し社会全体でセーフティネットをつくり支える必要があることに気づかせる。 <p>【学習内容】 共助の考え（社会保険）、公助の考え（公的扶助、社会福祉、公衆衛生）</p> <p>◇日本の社会保障制度について理解する。 <知識・技能>（机間指導）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ない理由で自立が困難となる場合としてヤングケアラーの存在を知り、社会福祉について考えさせる。 ・具体的に支援できる人を考えることで身近な問題であることに気づかせる。
<p>まとめ 10分</p>	<p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 持続可能な社会保障制度には自分で守る（自助）ことに加え、親密な人同士、仲間・地域が助け合う（互助）、社会保障など組織的に共に支えあう（共助）、困った人を助ける（公助）の仕組みがそれぞれ適切に働くことが大切です。</p> </div> <p>7 本時の学習内容を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だれ一人取り残すことのない社会の実現のためによりよい社会や未来の担い手として社会保障制度を考えていくことの大切さを話す。 <p>◇これからの社会保障制度について、持続可能な観点から考察し表現している。 <思考・判断・表現>（ノート観察）</p>